

平成29年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

上田市教育行政評価懇話会

第1回 平成30年7月 3日(火) 午前9時30分～午前11時30分

第2回 平成30年7月 9日(月) 午後3時30分～午後5時30分

第3回 平成30年7月31日(火) 午前9時30分～午前11時30分

上田市教育委員会

目 次

I 趣旨		1
II 上田市教育行政評価懇話会		1
III 評価の方法		2
IV 評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1 上田市教育支援プランの推進		
① 学力の定着・向上	学校教育課	3
② 英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実	学校教育課	4
③ 特別な支援を要する児童生徒への支援	学校教育課	5
④ 食育の推進・充実に向けた環境の整備	教育総務課	6
⑤ 放課後児童対策の充実	学校教育課	7
⑥ 小中学校のあり方の検討	教育総務課	8
2 学校施設のあり方の検討と計画的な改築・改修による教育環境の整備		
① 学校施設のあり方の検討	教育総務課	9
② 小中学校施設の計画的な改築・改修	教育総務課	10
3 文化遺産の継承・活用		
① 史跡等整備推進と文化財の保護と活用	生涯学習・文化財課	11
② 郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出	博物館 生涯学習・文化財課	13
③ 「上田市歴史文化基本構想」の策定事業(平成28～30年度)	生涯学習・文化財課	14
4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
① 社会教育施設の計画的な整備	生涯学習・文化財課	15
② 地域と連携した学校を支援する取組(信州型コミュニティスクール)の充実	生涯学習・文化財課	16
③ 人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	17
5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
① スポーツ施設整備の推進	スポーツ推進課	18
② 市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会実現のための施策	スポーツ推進課	19
③ 総合型地域スポーツクラブの活動支援	スポーツ推進課	20

I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

II 上田市教育行政評価懇話会

平成29年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月3日、7月9日、7月31日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏 名	略 歴	備 考
松本 千恵子	西部公民館運営審議会委員、元上田教育事務所 学校教育課長、元学校教育課指導主事、元北小学校長	座長
酒井 弘幸	元学校教育課指導主事(常磐城ふれあい教室)、元城下小学校長	副座長
荒井 貞雄	上田市スポーツ推進委員、民生児童委員	
竹花 のり子	上田市社会教育委員	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、上田市社会教育委員	
町田 龍一郎	筑波大学生命環境科学研究科教授、上田市文化財保護審議会委員	
山崎 順子	西部公民館運営審議会委員、元上田市教育委員	

Ⅲ 評価の方法

平成29年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成29年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

平成29年度 事業評価シート

1-①

事業名	学力の定着・向上	担当課	学校教育課
-----	----------	-----	-------

当初目標	学習習慣を身に付ける家庭学習の充実を図るため、一部小中学校で試行を開始した、生活・学習ノート「紡ぐ」の検証を行い、平成30年度からの全小中学校での活用を目指します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	小学校5校、中学校3校による試行活用		0
	学力向上委員会小委員会による検証及びノート仕様検討（3回開催）		0
	平成30年度の全校活用に向けたノートの印刷		2,474
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校5校、中学校3校で試行実施（4月～） ・全小中学校から意見聴取（8月～9月） ・学力向上委員会小委員会にて検証及びノートの仕様修正（9月～11月） ・市校長会で報告し了承を得る。（11月） ・平成30年度からの全小中学校活用に向け印刷経費を予算化（12月） ・教員、全児童生徒及び保護者に周知するための文書配布（3月） ・全小中学校にノートを配布（3月）平成30年4月から活用開始 		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	第2期上田市教育支援プランに掲げる施策の推進、特に学力の定着・向上に向けた取組を推進していく必要があります。学習習慣を身に付ける家庭学習の充実を図るため、本事業を継続して実施していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①生活・学習ノート「紡ぐ」を活用したことによる学力向上や生活面の改善などの事例が整理、検証されることで、より効果的な取組となることを期待します。</p> <p>②学力向上を目的とした大切な取組ですが、教員にとっても指導時間が確保できないなどの課題が想定されます。生活・学習ノート「紡ぐ」の活用が、学力の向上に向けた取組であることを教員が十分理解するとともに、教育委員会が、各学校が参考にできる取組を把握し、教員と会議を重ね、効果的な取組を広めていくことが大切であると考えます。</p> <p>③教育委員会では、この取組に対する児童生徒、保護者、教員の意見の把握に努め、ノートの内容や取組方法の改良を重ねることで、より効果的な取組となることを期待します。</p> <p>④この取組は家庭の理解と協力が不可欠と考えます。生活・学習ノート「紡ぐ」を通して、学校と家庭と一緒に子どもの学びを支えていくという気持ちを醸成するためにも、家庭に対して、この取組が学習習慣を身に付け、学力向上を目的としていることをしっかり伝える必要があると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>① 昨年度、試行実施校を対象に行った調査では、家庭学習時間の変化は全体的に見られないものの、「紡ぐ」への記入を教員、児童生徒が意識することで、「計画を立てて家庭学習を行うようになった」「家庭でのゲーム時間が減った」と回答する学校があり、良い変化が見られました。本年度も調査を実施し、実態の把握と改善例の発信に努めます。</p> <p>②「紡ぐ」の具体的な活用方法について、教育委員会としては示していませんが、全教員が有効に活用したいとの意識が広がるよう、各校の取組状況を把握し、好事例や児童生徒の変化の様子を全校に発信していきます。</p> <p>③校長会、学力向上委員会などを通じ、児童生徒や保護者、教員の意見の把握に努めます。また、児童生徒を対象にしたアンケート調査を年2回実施し、家庭学習時間数の変化などを教育委員会で検証するとともに、本年度も学力向上委員会小委員会において、ノートの仕様の修正、校内の取組方法などの紹介を行います。</p> <p>④本事業の主旨は家庭学習の習慣化であり、そのため保護者の協力は不可欠です。現在も各校から保護者への説明、協力依頼を行っていますが、教育委員会としても今後ノートの活用による効果等を広報等で周知し、学校とともに保護者に対し更なる理解・協力を求めていきます。</p>	
今後の方針等	生活・学習ノート「紡ぐ」の活用状況を把握し、効果的な活用事例、具体的な成果などを発信することで、各校の取組を促進します。また、使用に関する要望等を学校から聴取し、更なる有効活用が図られるよう学力向上委員会小委員会で検討や協議を行い、平成31年度の使用に向けより改良された「紡ぐ」の作成を進めます。		

平成29年度 事業評価シート

1-②

事業名	(小学校) 英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実	担当課	学校教育課
-----	--------------------------------	-----	-------

当初目標	2020年度からの次期学習指導要領改訂に合わせ教科化される、小学校外国語（英語）教育への円滑な移行を目指し、平成30年度からの全小学校先行実施に向けた取組を行う。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	英語教育担当指導主事の配置		2,204
	小学校英語教科化推進委員会の開催（3回）		0
	小学校英語教科化研修会の開催（2回）		65
	小学校英語教科化に伴う準備経費（消耗品等）の配当		4,246
目標の達成状況	①小学校英語教科化推進委員会の開催 ・授業時間数増に伴うカリキュラム検討 ・学年別に上田市モデルカリキュラムを作成 ・指導事例（日本語・英語）の作成 ・CAN-DOリストによる児童評価作成 ・公開授業の開催（11回） ・活動報告書を作成し全小学校へ配布 ②小学校英語教科化に伴う準備 ・英語教育担当指導主事による学校訪問 ・デジタル教材（モジュール105）の配備、準備経費の配当		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	小学校外国語（英語）教育先行実施に際し、今後明らかとなってくる課題解決と引き続き教員の指導力向上を図る必要があります。 また、英語が楽しいと考える児童生徒の育成及び英語によるコミュニケーション能力の向上に向け、学校の授業以外にも英語に触れる機会を創出していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①英語教科化を見据えた先行実施に向けて、職員研修、教材研究など現場の教員を支援する取組が行われていることを評価します。 なお、職員研修については、児童に適切な英語教育が実施されるよう、また、教員が自信をもって英語教育に臨むことができるように、英語教育に関係する全ての教員が参加できるよう取り組む必要があると考えます。 ②英語の授業を行う学級担任が、ALTの力を十分に取り入れ、「ALTとの協働的なチームティーチング」を実現することで、英語教育の専門性を高めることができると考えます。また、このような取組が実効性を伴い多くの学校で実現できるように、職員研修の実施が重要と考えます。なお、学校では様々な場面で「協働」が求められますので、「協働」をテーマとした幅広い研修も必要と考えます。 ③英語の授業を楽しくすることはもとより、児童とALTと一緒に給食を楽しむなど、普段の学校生活において、英語に触れる楽しさを児童が感じるような取組も大切であると考えます。	
	意見に対する考え方	①2年間の先行実施期間を有効に活用し、小学校教員が自信を持って授業が展開できることを目指します。そのための全体研修会を開催するとともに、校内研修も充実するよう学校を支援していきます。研修会の参加者については、受持ちの学年を問わず希望者が参加できるよう改善します。 ②本年度から、小学校配属の外国語指導助手(ALT)に対して、年度当初の長期研修、月1回の定期研修の受講を求め、学級担任と協働した授業が展開できるよう指導を行っています。同時に学級担任に対しても、ALTと協働した授業づくりについて校内研修の実施を求め、担当指導主事が支援を行っています。今後もこのような取組を継続していくことで「ALTと協働したチームティーチング」の実現を目指します。 ③ALTに対し、児童や教員の輪に積極的に加わり、英語でコミュニケーションを取るよう指導しています。英語に触れる機会を増やし、英語が話せた、楽しいと思える児童が増えるよう、小学校現場にもこのような機会を創出するよう求めていきます。	
今後の方針	小学校英語教科化推進委員会による協議、公開授業及び外部指導者による研修会の開催を通じ、教員の指導力向上を図ります。また、ALTを毎週定期的に小学校に派遣し、児童や教員が普段から英語に親しむ環境づくりを進めます。		

平成29年度 事業評価シート

1-③

事業名	特別な支援を要する児童生徒への支援	担当課	学校教育課
-----	-------------------	-----	-------

当初目標	小学校8校、中学校4校の特別支援学級にタブレットパソコンと無線LANを整備し、個に応じた学習支援を行い、集中力、意欲力を高め学力の向上に繋げていく。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	8小学校・4中学校 合計12校 70台導入（当初整備目標台数）		5,159
	6小学校・2中学校 合計8校 47台導入（追加整備台数）		4,619
目標の達成状況	<p>H28～30年度までの3ヶ年をかけて特別支援学級へタブレットパソコンを導入する計画であったが、市町村合併特例交付金を活用して、今年度、小中学校の全特別支援学級に機器の導入及び無線LANの整備が完了した。</p> <p>タブレットパソコンで個々の特徴に合わせたアプリや教材を使用することにより、児童生徒の集中力や理解力を高めることに効果が見られた。一例として、読むことが困難な児童が、ふりがなを表示させながら音声再生するアプリを使うことにより、中断することなく最後まで文章を読む姿が見られるようになった、という事例がある。</p>		

総合評価		A
今後の課題等	機器の導入は完了したので、今後はソフト面や教師の指導力を向上させ、児童生徒の学力向上へ繋げていく。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①特別な支援を必要とする児童生徒にとっては、タブレットパソコンを活用することで、文字を読むことができるようになるなど、子どもの可能性を広げることができる大切な取組であると考えます。このような取組ができる環境整備が前倒しで完了したことを評価します。</p> <p>②タブレットパソコンを用いた授業を通して、児童生徒の可能性を広げるとともに、支援が必要な児童生徒が社会で生きていくうえでの必要な力をつけるため、将来を見据えた支援が実施されることを期待します。</p> <p>③この取組は、特別な支援を必要とする児童生徒に対して、大変有効であることから、多くの教員がタブレットパソコンを用いた授業に対応できるように、職員研修の機会を継続的に教員に提供する必要があると考えます。</p> <p>また、職員研修に加えて、教員と児童生徒が何でも話すことができるような信頼関係を構築することは、児童生徒の成長を促すうえで非常に大切なことであると考えます。</p>
	意見に対する考え方	<p>①今後も特別な支援を必要とする児童生徒に合ったソフト等の導入など教育環境整備に努めてまいります。</p> <p>②特別支援学級の目的でもある「自立と社会参加」のため、タブレットパソコンを効果的に活用し、児童生徒の「困り感」を軽減し、義務教育期につけるべき基礎学力の定着に向けて、児童生徒一人一人に合った支援をしていきます。</p> <p>③タブレットパソコンの操作方法の他に、特別支援学級以外の教職員にも、児童生徒への理解を深めるための研修を継続的に実施します。また、特別な支援を必要とする児童生徒が、原籍学級においてもタブレットを使用した授業が受けられるよう、インクルーシブ教育に基づく合理的配慮を進めます。</p>
今後の方針等	ICT支援員による機器の操作方法の研修とともに授業に役立つソフトの情報提供に努めます。また、障がいに対する理解を深め、児童生徒と信頼関係を築くため職員研修を引き続き実施します。	

平成29年度 事業評価シート

1-④

事業名	食育の推進・充実に向けた環境の整備	担当課	教育総務課
-----	-------------------	-----	-------

当初目標	平成27年に決定した「今後の学校給食運営方針」に基づき、学校給食施設の整備に向け、内部検討組織において、施設及び運用方法について検討を進めます。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	内部検討組織による施設整備及び運営に関する検討		0
	建設用地及びインフラ整備状況の調査・関係機関との協議		0
目標の達成状況	栄養士による食物アレルギーに関する検討		0
	<p>①内部検討組織である学校給食検討会議において、施設整備計画に影響する食器の種類やサイズについて一定の方向性を決定しました。 また、給食に関わる職員と食材生産者の相互理解を図るため、農産物マーケティング推進室と意見交換を行い、食材の発注方法に工夫の余地があることを確認し、これを研究することとしました。</p> <p>②建設候補地について、立地、面積などの諸条件の調査に加え、インフラの状況を関係機関へ確認・協議し、候補地の絞り込みを進めました。</p> <p>③施設整備は、市長部局等の関係課の協力が不可欠であることから、情報共有、意見交換を行うとともに技術的な面での助言を仰ぎました。</p> <p>④食物アレルギー対応については、学校給食に関わる栄養士を中心に、現在対応している施設における実施方法を整理するとともに、新センターにおける対応方針について協議しました。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>給食施設の老朽化が進行しているため、安全な学校給食を継続するため、早期に施設を更新する必要があります。</p> <p>ただし、給食施設の整備方針について、市長から再検討を求められていることから、教育委員会として、現在の方針を検証した上で、施設整備に関する方向性を示す必要があります。</p> <p>また、食物アレルギー対応食の提供について、安全性を第一に考えながら、具体的な対応方針・方法について、検討を進める必要があります。</p>
上田市教育行政評価懇話会	<p>委員からの意見</p> <p>学校給食における地場産物の活用は、地域食材への理解、食に対する感謝の念を育む等の教育的効果があるとされています。</p> <p>児童生徒の故郷である上田を大切に思う気持ちを育むためにも、調理方式や施設規模に関わらず、引き続き地場産物の活用を大切にされた学校給食が提供されることを願います。</p> <p>意見に対する考え方</p> <p>現在、学校給食施設の老朽化や食物アレルギー対応を実施するため、施設の更新について検討を進めています。学校給食における地場産物の活用については、地域食材への理解をはじめとする高い教育的効果が期待されています。このようなことから、新しい施設の建設に関する検討においても、地場産物を積極的に活用できるように農林部などの関係機関と連携を図り、これまでの取り組みを継続していきます。</p>
今後の方針等	<p>市長からの依頼を受け、現在の施設整備方針に関する再検討を早急に進めます。</p> <p>安全な学校給食を継続するために、老朽化した施設・設備の点検及び必要な修繕を実施します。</p> <p>食物アレルギー対応については、栄養士・調理員・教職員など学校給食の関係者が連携して、安全な給食の提供に向けて検討を重ねます。</p>

平成29年度 事業評価シート

1-⑤

事業名	放課後児童対策の充実	担当課	学校教育課
-----	------------	-----	-------

当初目標	放課後児童クラブ等の安定的な運営と児童の安全な施設利用の維持するために、国県の補助金を活用し、放課後児童支援員等の処遇改善（給料の増額）を実施します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	指定管理料への処遇改善費用の上乗せ		4,418
目標の達成状況	<p>職員数、就労形態（常勤又は非常勤）、勤続年数に応じて処遇改善額を決定し、平成29年12月に指定管理料に上乗せして支払いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度総額 3,549,100円（年額172,800円の職員が最高額） ・平成29年度総額 4,417,700円（年額182,000円の職員が最高額） <p>（指定管理者にとっては経験豊富な職員を継続して雇用できること、また、職員にとっては就労意欲向上につながり、職員の離職防止や新規採用に効果が期待できます。）</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	処遇改善を継続するためにも、国県の補助金以外の財源を検討する必要があります。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	放課後児童クラブ等における、児童の安全な施設利用を目的とし、必要な人員配置を維持するための取組として評価します。 目的が児童の安全な施設利用であることから、国県の補助金の有無に関わらず、必要に応じて実施されるべき事業と考えます。
意見に対する考え方	放課後児童クラブ等の安定的な運営と児童の安全な施設利用の維持には、そこで働く職員の確保が今後さらに重要になってきます。処遇改善などの取り組みを継続していくため、使用料の改正等、安定した財源確保について検討していきます。	
今後の方針等	使用料の改正等を含めて財源の検討をします。	

平成29年度 事業評価シート

1-⑥

事業名	小中学校のあり方の検討	担当課	教育総務課
-----	-------------	-----	-------

当初目標	現在の小中学校が抱える課題を踏まえ、研究及び意見交換を行う教育委員会の内部検討組織「上田市小中学校のあり方研究懇話会」（以下「懇話会」という。）を設置し、中長期的な改革の方向性について提言をいただきます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	懇話会の開催（4回・委員：有識者7人、教育長、教育委員4人）		71
	懇話会アドバイザーによる講演・意見交換		74
	教育委員による先進自治体の視察		145
	懇話会からの提言書の提出		0
目標の達成状況	<p>①懇話会を当初計画どおり4回（7月、10月、1月、3月）開催し、現状と課題を踏まえた研究・意見交換を行うことにより、大卒の方向性における検討が進められました。</p> <p>②第3回懇話会では、懇話会アドバイザー・樋口直宏氏（筑波大学教授）による他自治体の先進事例等の講演及びアドバイザーを交えた意見交換を開催し、「小中一貫教育」や「義務教育学校」など新たな義務教育のあり方に関する情報共有が図られました。</p> <p>③教育委員による栃木県小山市・茨城県つくば市への視察を実施し、小中一貫教育等に関する先進事例の研究を深めました。</p> <p>④懇話会から、上田市の小中学校が抱える課題を踏まえた、次年度以降における小中学校のあり方の検討について提言をいただきました。</p>		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	懇話会からの提言を踏まえ、新たな時代に相応しい小中学校のあり方（ソフト面）とともに、学校施設の老朽化に伴う改築需要を見据えた、持続可能な教育環境としての小中学校のあり方（ハード面）の両面から検討を進めることにより、望ましい教育の方向性としての小中学校のあり方に関する基本方針を策定する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①望ましい教育の方向性に関して、少子化による学校の小規模化や学校施設の老朽化など、様々な要素を加味して検討を進める難しいテーマであると考えます。 このため、広く市民に関心を持ってもらい、あらゆる知恵を動員し、議論を進める必要があると考えます。そのためにも、この議論について積極的な広報が行われる必要があると考えます。</p> <p>②今後、本格的な検討が進められることとなりますが、次世代を担う子どもたちをしっかりと育てることができる教育が実現できる環境づくりに向けて、検討が重ねられることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①②この懇話会における提言を踏まえた次の段階の検討においては、学習指導要領の改訂に伴う新たな教育課程への対応、小中一貫教育やコミュニティスクール等、新たな学校組織のあり方を見据えた検討など、教育を取り巻く現状と課題を踏まえた検討を行ってまいります。 また、今後、多くの小中学校施設が耐用年数を迎えることから、学校施設の老朽化への対応を早急に進める必要があり、ソフト面・ハード面の両面からの検討を進めてまいります。 小中学校のあり方の検討にあたっては、市民への情報発信にも留意し、保護者、地域、教職員などの皆様からの十分なご理解をいただきながら進めてまいります。</p>	
今後の方針等	平成30年度から、有識者による検討組織「（仮称）上田市小中学校のあり方検討委員会」を設置し、懇話会の提言を踏まえた小中学校のあり方に関する基本方針を策定します。（策定期間：2年間）		

平成29年度 事業評価シート

2-①

事業名	学校施設のあり方の検討	担当課	教育総務課
-----	-------------	-----	-------

当初目標	学校施設の適正規模・適正配置の検討の基礎となる学校施設管理台帳を作成する。 (小学校25校、中学校11校の主な建物ごと)		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校施設カルテの作成	0	
目標の達成状況	平成29年度末時点において、市内小中学校の主要な施設すべてにおいて、建築年度、構造、面積、改修履歴等を記載した「学校施設カルテ」を作成しました。		

総合評価	B		
今後の課題等	文部科学省からの通達により、各市町村が策定する施設の総合管理計画（上田市では「公共施設マネジメント基本方針」）に基づき、平成32年度末までに個別施設の長寿命化計画を策定するよう要請されています。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>今後の施設改修等に向けて、施設の現状を正確に把握する重要な取組として評価します。</p> <p>今回整理された基礎的な情報に加え、施設ごとの老朽化の状況、施設使用における問題点などの情報も整理、管理されることで、今後の施設整備に生かすことができると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>学校施設カルテは、建設から耐用年数を迎えるまでの間に係る施設のトータルコストを計ると同時に、今後予定している学校施設の「長寿命化計画」を作成する上での基礎データとなります。</p> <p>第二次ベビーブームの影響により、昭和40年代から50年代にかけて建設された学校施設が多く、これらの施設が今後、一斉に改築時期を迎えるに当たり、改築に係る費用も一時的に増大することが予想される中、安定した施設改築等を行うため、一部施設については、長寿命化改修を行うことにより施設の延命化を行うなどして、改築のピークを分散し、学校施設の維持管理に係る費用を分散する必要があります。</p> <p>長寿命化計画は、これらの個別の施設の状況を集約し、施設の状況に応じて、改築や長寿命化改修等の手法を定め、効率的な施設の維持管理を行うために作成し、併せて施設の維持管理に係る予算の平準化も図ることとされています。</p> <p>上田市としても、学校施設カルテの基礎データをもとに、今後、長寿命化計画の策定に向け取り組みを進めてまいります。</p>	
今後の方針等	今回作成した「学校施設カルテ」をもとに、平成30年度から長寿命化計画策定のための検討を開始し、平成32年度末までの完成を目指します。		

平成29年度 事業評価シート

2-②

事業名	小中学校施設の計画的な改築・改修	担当課	教育総務課
-----	------------------	-----	-------

当初目標	子どもたちの安全な教育環境を確保するため、計画的な施設の改修・改築を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	川西小学校改築事業（プール改築Ⅱ期、外構工事）	189,356	
	本原小学校改築事業（仮設校舎解体・外構工事）	68,099	
	第三中学校改築事業（仮設校舎解体、プール改築Ⅰ期、外構工事）	190,317	
	第四中学校改築事業（プール改築Ⅱ期、外構工事）	129,806	
	小学校トイレ男女別化工事（北1・神科1・南小2〔計4箇所〕）	40,495	
目標の達成状況	<p>川西小（プール・外構）改築事業については、予定よりも早く11月に竣工し、本原小（仮設校舎解体・外構）、第四中（プール・外構）、小学校トイレ男女別化の各工事については、概ね当初の予定どおり工事が進捗し、それぞれ竣工しました。</p> <p>第三中（解体・プール・外構）については、プール改築に伴う旧体育館の解体工事中、アスベストが発見され、着工が当初予定よりも遅れましたが、1月に着工し鋭意工事を進め、予定どおり平成30年度上半期には竣工する予定です。</p>		

総合評価	B		
今後の課題等	平成30年度の第三中学校改築事業の竣工に伴い、学校施設の耐震化に伴う全工事が完了しますが、今後は、老朽施設の長寿命化、改築等、引き続き施設整備を計画的に進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①子どもたちの安全・安心に直接関わる大切な事業であると考えます。 平成29年度から小中学校のあり方の検討が進められており、その検討状況も注目されるところでありますが、これに関わらず、必要な施設修繕については、確実に進められることが必要と考えます。</p> <p>②小中学校の施設は、日ごろの子どもたちの安全に加え、災害時には地域住民の大切な避難場所として使用されることを踏まえ、計画的に維持・修繕が行われる必要があると考えます。</p> <p>③他の自治体において、小中学校のエアコン整備について検討する動きがあるようですが、子どもたちの学びやすい環境の整備という視点と、近年の夏日、猛暑日の状況などの客観的な要素を踏まえ、上田市においても必要性の有無について、検討が進められることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①学校施設における修繕については、毎年、職員が学校に直接赴き要望を聴取し、施設整備担当において優先度等を勘案しながら、随時対応しており、今後についても、継続して取り組みます。</p> <p>②避難場所としての学校施設の果たす役割は大きく、安全性を最優先とした施設の維持管理が求められます。避難場所として使用される各学校の体育館においては、躯体の耐震化及び非構造部材の耐震化はすでに完了していることから、今後においては、適宜、求められる水準を確保できるよう修繕に努めてまいります。</p> <p>③平成30年度から学校環境衛生基準が見直され、学習環境においては、17℃から28℃の範囲を保つことが望ましいとされました。今後に向け、各学校の学習室の温度の状況を把握し、空調設備の設置について検討してまいります。</p>	
今後の方針等	老朽化した学校施設の長寿命化やハード面における小中学校のあり方の検討を並行して行い、その結果も踏まえて計画的に施設整備を進めます。併せて子どもたちの安全安心な教育環境の確保に配慮した施設改修に引き続き取り組みます。		

平成29年度 事業評価シート

3-①

事業名	史跡等整備推進と文化財の保護と活用	担当課	生涯学習・文化財課
-----	-------------------	-----	-----------

当初目標	<p>消滅や損傷の恐れのある有形文化財を保護して、活用しながらより良い姿で後世に継承するとともに、担い手が減少しつつある無形文化財の後継者育成を支援するために、以下の事業に取り組みます。</p> <p>①文化財の調査と指定（文化財保護審議会の開催・文化財調査） ②史跡上田城跡復元整備事業（整備委員会の開催・発掘調査ほか） ③史跡信濃国分寺跡整備事業（報告書の作成・大型説明板設置） ④埋蔵文化財保護事業（手筒山遺跡発掘調査・報告書作成ほか） ⑤市内文化財の保存・活用（文化財de文化祭の開催・補助事業の実施）</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	上田城跡発掘調査（2月）及び報告書作成		3,830
	手筒山遺跡発掘調査（5月～7月）及び報告書作成		7,090
	県宝旧倉沢家住宅文庫蔵保存修理工事（2月～3月）		1,341
	「文化財de文化祭」旧宣教師館で開催（11月26日）		500
目標の達成状況	<p>①文化財保護審議会を12月に開催しました。また、指定文化財等候補として大手町塩之家（武家住宅）、紺屋町小泉家（町屋建築）、手塚滝沢家（養蚕農家）の3件について建造物調査を行いました。</p> <p>②上田城跡整備は、近年の発掘調査の成果をまとめた報告書を作成するとともに、2月に真田神社社務所跡の発掘調査を行ったところ、真田氏時代の金箔鬼瓦片を含む多くの遺物が出土しました。また、史跡上田城跡整備実施計画検討委員会を3月に開催し、今後の上田城跡整備について指導と助言を得ました。</p> <p>③信濃国分寺跡については、近年の発掘調査の成果をまとめた報告書を作成するとともに、大型説明板3基を設置しました。また、平成30年度公有化対象物件の用地測量と補償物件調査を行いました。</p> <p>④埋蔵文化財保護では、施設建設に伴い信州大学敷地内に所在する手筒山遺跡の発掘調査を行い、弥生時代の住居跡6軒が発見され、土器などの遺物が出土しました。また、開発事業に伴う立会調査132件、試掘調査2件を行いました。</p> <p>⑤旧倉沢家住宅文庫蔵の保存修理工事を実施するとともに、旧千曲会館、保野の祇園祭、科野大宮社の保護事業と、無形民俗文化財等後継者育成事業（16団体）に対して要綱に基づき補助金を交付しました。 また、「文化財de文化祭」事業は、11月26日に市指定文化財旧宣教師館で群響メンバーによるアンサンブルの演奏会と文化財見学会を昼夜2回開催し、計50人の参加がありました。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>上田城跡と信濃国分寺跡の整備については、整備計画等に沿って計画的に実施していくことが必要です。</p> <p>多くの文化財を有する上田市として、その歴史と文化遺産の情報を戦略的に発信し、その価値を共有化するとともに、活用し続けるための施策が必要です。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①無形民俗文化財等の後継者育成事業は、後継者育成に一定の効果があると考えます。無形文化財は、有形文化財に比べると広く市民に知ってもらう機会が少ないと考えます。関係者の取組を後押しすることで、より後世に繋げることができるよう、無形文化財について、広く市民に知ってもらうような発表の場を設けるなどの取組を検討されることを期待します。</p> <p>②文化財の保存等の取組には、職員の専門性の向上、すなわち、学芸員の育成が不可欠と考えます。</p> <p>③上田市には多くの文化財がありますが、これを保存、活用していくためには、地域の協力が不可欠であると考えます。学校、自治会など地域との協力のもと、貴重な文化財を後世へ残す取組が進められることを望みます。</p>
	意見に対する考え方	<p>①無形民俗文化財等の振興については、祭礼（演舞）の日程を広報うえだやホームページ等に掲載し、多くの方に鑑賞していただけるよう周知に努めております。また、機会を捉えて、いくつかの保存会が一堂に会して演舞を披露する場を設けられるよう各保存会と協議しながら検討してまいります。</p> <p>②今年度、2名の学芸員を専門職で採用しました。国や県の主催する様々な研修会等に可能な限り参加し、幅広い専門知識を取得できるよう資質向上に努めています。</p> <p>③市内各地に残る文化財を保存・活用していくためには、地域の人々の理解と協力が必要です。自治会や学校などとの連携を図るとともに、「文化財de文化祭」や子ども向けのイベントを通じて周知と活用に努めてまいります。</p>
今後の方針	<p>史跡整備や旧倉沢家住宅の保存修理などを計画的に実施します。</p> <p>地域の文化財を保存・継承していくために、保存修理や後継者育成に対して補助を行うとともに、「文化財de文化祭」事業等を通じて公開・活用に積極的に取り組みます。</p>	

平成29年度 事業評価シート

3-②

事業名	郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出	担当課	博物館 生涯学習・文化財課
-----	-------------------------	-----	------------------

当初目標	郷土の文化・歴史、先人・偉人の業績を市民や観光客に知っていただき、理解と愛着を深めていただくため、以下の事業を実施します。 ①郷土の文化・歴史や偉人の業績をテーマとした特別展及び講座の開催 ②郷土の文化・歴史に係る資料の調査研究		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	①博物館…企画展4回、史跡めぐり4回、古文書講座・博物館講座等の公開講座11回 資料館…企画展3回、「親子de縄文体験塾」3回、「学校出張歴史体験教室」10校、「市民講座」3回、「奈良時代を学ぶ会」9回、「万葉講座」3回、「資料館講座」8回	2,000	
	②博物館収蔵資料の整理及び調査研究	0	
目標の達成状況	<p>①博物館、信濃国分寺資料館で、郷土の文化、歴史、偉人の業績をテーマにした企画展や講座等を計画どおり開催しました。</p> <p>博物館では、真田信繁と真田家の絆や上田城下町をテーマとした企画展、大政奉還150周年にちなんだ赤松小三郎の企画展を開催したほか、古文書講座や公開講座、県内外の史跡めぐりなどを実施しました。</p> <p>資料館では、上田盆地の山城や弥生時代をテーマとした企画展を開催し、併せて講座や教室などを実施しました。</p> <p>②博物館・資料館で、古文書・考古資料等所蔵資料の整理や調査研究をしました。</p>		

総合評価	B		
今後の課題等	博物館は、市民会館の閉館以降、講座等を実施する会場の確保が困難となっており、施設の老朽化も著しく、収蔵庫も飽和状態のため、新たな施設整備を検討する必要があります。 ハードの劣化を、当面ソフトの充実によって補完し、利用者サービスの維持に努めます。		
委員からの意見	<p>①郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出に向けて、学芸員の採用や職員研修による資質向上に取り組んでいることを評価します。</p> <p>②博物館において、各種の有意義な企画展等が実施されていることを評価します。 より多くの市民や観光客に郷土の文化・歴史等を知る機会を提供するために、博物館の認知度がさらに高まるような取組が行われることを望みます。</p> <p>③さまざまな方法の情報発信がありますが、特にインターネットを活用した情報発信は、幅広い対象者に情報発信ができることから重要性が高いと考えます。インターネットを用いた情報発信において、観光分野や文化財がリンクしてさらに効果的な取組となるよう研究されることを期待します。</p>		
上田市教育行政評価懇話会 意見に対する考え方	<p>①真田丸以降も活況を呈する上田城への観光客対応、郷土の文化・歴史等をより広く深く知りたいという市民の要望に対し、より充実した対応を行うためにも、学芸員の増員等を要望するとともに、文化庁や県の研修に積極的に参加し、学芸員の資質向上を目指します。</p> <p>②博物館単体はもちろん、多くの観光客が利用する本丸櫓において、博物館へのより効果的な誘導を図ります。櫓と博物館がセットになった歴史情報をPRし、史跡全体の魅力アップを図ります。また、市民公開講座や企画展を通じ、専門家による歴史・文化の多彩な情報を利用者に還元していきます。</p> <p>③インターネットによる情報発信は、現在あらゆる分野で活性化していますが、膨大な情報量に飲み込まれぬよう、幅広い対象者から選択される魅力ある情報発信を目指します。</p>		
今後の方針等	博物館・資料館において、魅力ある展覧会の開催や定期的に常設展示の展示替えを行うとともに、市民や観光客のニーズに対応した公開講座等を開催します。 以上の事業を遂行するために学芸員の増員や職員の資質向上に向け取り組みます。		

平成29年度 事業評価シート

3-③

事業名	「上田市歴史文化基本構想」の策定事業 (平成28～30年度)	担当課	生涯学習・文化財課
-----	-----------------------------------	-----	-----------

当初目標	地域に存在する文化財を指定・未指定に関わりなく、周辺環境まで含めて総合的に保存し、活用するためのマスタープランとなる「上田市歴史文化基本構想」の策定事業を進めます。 ①上田市歴史文化基本構想策定委員会の開催（2回） ②文化財の現地調査及び調査カードの作成		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①上田市歴史文化基本構想策定委員会の開催（2回）		42
	②市内の古民家90件、仏像140件の調査と 調査カードの作成（全体の約75%終了）		7,280
目標の達成状況	3ヶ年事業の2年度として、28年度に引き続き市内各所の古民家90件と仏像140件の調査を行い、全体の進捗率は約75%に達しました。 また、基本構想案を審議していただくために、12月に学識経験者からなる「上田市歴史文化基本構想策定委員会」を組織し、12月と3月に2回の委員会を開催し、構想案の検討に着手しました。		

総合評価		B
今後の課題等	歴史文化基本構想は、「日本遺産」への申請時期（毎年1月末）を考慮すると、平成30年12月末までに策定する必要があります。 そのため、残りの文化財悉皆調査と、構想案の作成にスピード感を持って取り組む必要があります。 また、基本構想の策定と同時進行で「日本遺産」の認定申請に向けた準備作業を進める必要があります。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	歴史文化基本構想の策定に向けた取組として、文化財悉皆調査が行われていますが、この調査結果が整理され、市民に公開することができれば、市民の文化に対する関心の醸成につながる大きな成果であると考えます。 「日本遺産」の認定についても注目されることですが、地域と協力し文化財に関する地道な調査が進められていることを評価します。
	意見に対する考え方	「歴史文化基本構想」については、文化財悉皆調査の成果を盛り込み、地域の文化財を総合的に保存・活用していくためのマスタープランとなるよう、策定に向けて作業を進めてまいります。 「日本遺産」の認定申請については、「歴史文化基本構想」策定事業と並行して準備に着手しており、多方面の意見を聴取するとともに、文化庁と事前協議を行い、準備を進めてまいります。
今後の方針等	古民家・仏像の文化財悉皆調査を継続するとともに、策定委員会を開催し、12月末までに「上田市歴史文化基本構想」を策定します。 また、文化庁と協議しながら「日本遺産」認定申請の準備作業を進め、平成31年1月末に申請を行います。	

平成29年度 事業評価シート

4-①

事業名	社会教育施設の計画的な整備	担当課	生涯学習・文化財課
------------	---------------	------------	-----------

当初目標	<p>誰もが生涯にわたって学び、その学びを生かせる、生涯学習環境の整備を進めます。</p> <p>①西部公民館施設整備については、外構等の施設整備を進めます。</p> <p>②神川地区拠点施設整備については、建設用地の造成を行い、複合施設の建設を行います。</p> <p>③上田市の図書館施設の配置やあり方、役割分担も含め「上田市図書館基本構想」を策定します。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	①西部公民館（外構工事）		114,840
	②神川地区拠点施設（保育園・公民館）の整備 [保育課予算]		76,882
	③第二次上田市図書館基本構想の策定		0
目標の達成状況	<p>①西部公民館は外構工事の終了で年度内の竣工を向かえ、一連の建替事業を完了しました。</p> <p>②神川地区拠点施設の整備については、造成工事を終え、建物については、平成29年12月に着工しました。</p> <p>③第二次上田市図書館基本構想を平成30年2月に策定しました。</p>		

総合評価		B
今後の課題等	<p>豊かな生涯学習社会の実現に向け、老朽化等が進む社会教育施設について、引き続き計画的な整備を行い、生涯学習環境の充実を図っていくことが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神川地区拠点施設（保育園・公民館）の整備 ・上田図書館の整備 	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①西部公民館をはじめとしてハード面の整備が計画に沿って進められていることを評価します。住民が利用しやすい生涯学習の拠点が整備されましたので、公民館同士の情報交換を大切にして、より充実した公民館事業が展開されることを期待します。</p> <p>②館長、主事会における議論は社会教育に携わる市民にとっても有意義な情報であると考えます。将来的には、その内容を市民が知ることができるような情報発信が行われることを期待しています。</p> <p>③地域の公民館活動に加え、他地域の活動について知ることが、市民の学びの機会を広げ、生涯学習の推進に効果があると考えます。</p> <p>④図書館整備については、多くの検討事項があることから、事業着手までには一定の時間を要すると思いますが、現在取り組んでいる近隣市町村の図書館との連携などを継続することにより、利用者の利便性を考慮した運営が継続されることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>①市内には9公民館があり、それぞれ地域課題、社会課題解決に向けた特徴的な講座等を展開しています。事業内容は各館に設置された公民館運営審議会や全市の社会教育委員会等で定期的に協議をいただき、また職員も毎月、館長会や主事会で情報共有を行うとともに、他の市町村公民館とも会議等を通じ情報交換を行っております。引き続き、充実した活動を目指し地域の学習拠点としての役割を果たせるよう努めてまいります。</p> <p>②社会教育法等で公民館の役割が謳われており、その実現のために市内外の職員同士で話し合いや研修会を通じ情報交換を行っております。その話し合い自体が有意義な情報であるとのことご指摘をいただき、今後改めて、発信する内容及び方法等について研究してまいります。</p> <p>③現在、各公民館では「公民館だより」を発行するとともに、ホームページでの公開、さらに他の館の取組みも知っていただくため、他の館の「公民館だより」も館内に掲示又は閲覧いただけるよう配置しております。今後も他の地域の活動も知っていただけるよう情報提供に努めてまいります。</p> <p>④現在、上田市・東御市・長和町・坂城町・青木村の5市町村で、上田地域図書館情報ネットワーク(愛称エコール)を構成し、どこの公共図書館でも、図書の予約・貸出・返却が出来るようになっています。今後も、システムの更新を図るなど、より連携を深めた運営に努めてまいります。</p>
今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・神川地区拠点施設整備については、複合施設の建設を行います。 ・上田図書館については、「第二次上田市図書館基本構想」に基づき、検討を進めます。 	

平成29年度 事業評価シート

4-②

事業名	地域と連携した学校を支援する取組の充実	担当課	生涯学習・文化財課 学校教育課
-----	---------------------	-----	--------------------

当初目標	地域と連携した学校を支援する取組が持続可能な取組となるよう、次の事業を進めます。 ①コーディネーター用のマニュアルを作成、周知チラシの配布等をし、ボランティア、コーディネーターの発掘・育成に努めます。 ②統括コーディネーターを配置し、研修会等を開催します（5回）。ボランティア保険に加入します。 ③統括コーディネーターが中心となり、他の学校のコーディネーターや地域の方と情報交換を行います。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	統括コーディネーターを配置し、市内全小中学校の訪問調査を実施	0	
	マニュアル（ボランティア用ガイドブック）2,000部を作成	160	
	広報うえだ（11/1号）に記事掲載	0	
	ボランティア保険に加入	457	
	情報交換会の開催（2回） 研修会等の実施（5回）	15	
目標の達成状況	①学校教育課、公民館、生涯学習・文化財課で構成する「学校支援プロジェクト」会議を5回開催しました。（研修部会2回、広報部会2回、合同会議1回） ・ボランティア用ガイドブックを2,000部作成し、3月に配布しました。 ・周知用チラシを作成し、自治会、保護者等へ回覧・配布しました。 ・広報うえだに学校支援に関する記事を掲載し、地域の方に周知を図りました。 ②統括コーディネーター1名を生涯学習・文化財課に配置しました。 ・市内全小中学校を訪問し、学校の現状と課題を聞き取りました。 ・研修会等を5回実施しました。先進地視察を実施しました（上越市）。 ・ボランティア保険に加入しました。 ③情報交換会を2回開催し、ネットワーク作りを進めました（10月17日、3月8日）。		

総合評価	B		
今後の課題等	学校の実情や地域の特徴を生かしながら、コミュニティスクール（地域とともにある学校づくり）を継続できるよう、持続可能な体制を整備していくことが必要です。 ①地域が学校を支援する仕組みの更なる周知、広報が必要です。 ②統括コーディネーターを核としたコーディネーター・ボランティアの育成、ネットワーク作りが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	この取組が持続可能な取組となるように統括コーディネーターを中心に各種の事業が進められていることを評価します。 市内の小中学校は36校と多いことや、これまでの活動を生かしながら、より充実した取組ができるよう、統括コーディネーターの複数配置について検討されることを期待します。	
今後の方針等	意見に対する考え方	コミュニティスクールが持続可能な取組となるよう、統括コーディネーターを中心に、研修会・交流会などを行う中で、各地域・学校で活動しているボランティア・コーディネーターの情報交換やネットワーク作りを通じて人材発掘を進めてまいります。 今後、更に事業・活動が充実するに連れ、統括コーディネーターの役割が重要となりますので、組織の体制整備とともに、統括コーディネーターの複数配置を検討してまいります。	
今後の方針等	今後は、信州型コミュニティスクールが実効性のある事業とすることが大切であることから、学校、保護者、地域の皆様の意向を踏まえ、持続可能な取組になるよう支援していきます。 ①コミュニティスクールに関するチラシ等の配布やホームページを整備し、更なる周知を図ります。 ②研修会などを行うとともに、学校用・コーディネーター用のマニュアルを作成し、活用していきます。 また、ボランティアのネットワーク作りとして、情報交換会などを行う中で組織化、人材発掘を行っていきます。		

平成29年度 事業評価シート

4-③

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
-----	--------------	-----	-----------

当初目標	<p>人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。</p> <p>また、市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるよう研修会等(数値目標 参加者36,500人)を開催し、市民の人権意識の更なる向上を図ります。</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校人権同和教育		4,508
	地域人権同和教育		4,619
	社会教育団体等人権同和教育の推進		295
	企業人権教育の推進		200
目標の達成状況	<p>学校、地域、団体、企業等全体で、講演会と研修会を開催した結果、延べ37,500人が参加し、市民の人権意識の更なる向上が図られました。</p> <p>人権啓発担当者研修会では、市内の各種団体や各学校のPTA、保育園・幼稚園の保護者が参加し、地域のリーダーとなるべく人材の育成を目的とした学習会を実施しました。参加した多くの方から、「今日は研修できてよかった、今後に生かしたい」「毎年参加しているが、いつも大変参考になりありがたい」などご意見をいただきました。</p> <p>人権フェスティバルでは、事前に招待券を作成したり、小中学校に発表会を依頼するなど工夫した結果、前年比1.2倍(前々年比1.6倍)の参加がありました。</p>		

総合評価	B
-------------	----------

今後の課題等	<p>開催時間の調整や他のイベント等と競合しないような配慮をし、また、ちらしの作成にも工夫を凝らし、多くの皆さんの参加を呼びかけます。市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるような、有意義な研修会等を企画・実施し、人権同和教育と啓発を継続して推進していく必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①学校・地域等で人権感覚を育てる大切な取組が行われていることを評価します。</p> <p>人権感覚を育てるためには、毎年同じ講座を実施するのではなく、常に学び、新しいことに触れる必要があると考えます。</p> <p>また、国際理解とタイアップして人権同和教育の啓発を行う必要もあると考えます。</p> <p>②インターネットを悪用した人権侵害が全国的に発生しており、学校において、これらの分野を積極的に取り上げる必要があると考えます。</p> <p>③多くの研修会が実施されていますが、有意義な研修会をピックアップし、より多くの人に参加してもらえるように取り組まれることを期待します。</p> <p>④研修会の参加者が地域住民に研修内容を効果的に伝えるための1つの方法として、ワークショップ形式を取り入れるなどの仕組みづくりについても研究されることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①人権感覚を育てるため、新しい情報を取り入れ、講座やテーマ等に活かし、講座運営に工夫を凝らしてまいりたいと考えます。</p> <p>②インターネットと人権の課題については、保護者は、自治会懇談会や学校PTAの研修会で取り上げられ研修をしております。また、子どもたちについては、道徳の教科化に伴い単元として取り上げられ学んでいるほか、総合学習でも取り上げられております。このように保護者や子どもたちは多くの機会を捉えてインターネットと人権については学んでおります。</p> <p>③庁内で、有意義な研修会や、各種人権問題を扱った研修会の情報をそれぞれが共有することが必要と考えます。共有された情報を活かした講座運営を行い、多くの方に参加していただき、「参加して良かった。」と思えるような研修会の開催を目指してまいります。</p> <p>④人権啓発リーダーの方には人権啓発担当者研修会でワークショップ形式を体験していただいております。参加者が所属団体に持ち帰り、ワークショップ形式を取り入れた研修会が開催できるよう研修会等を工夫して実施してまいりたいと考えます。</p>	
今後の方針等	<p>地域、学校、企業等で行う研修会等においては、それぞれの課題に合わせた実効性のある取組となるよう検討していきます。また、公民館等と連携して、大勢の方に参加してもらえるよう工夫するとともに、参加した人が日常生活の中で人権に配慮した態度や行動に現れるよう教育と啓発に努めます。</p>		

平成29年度 事業評価シート

5-①

事業名	スポーツ施設整備の推進	担当課	スポーツ推進課
当初目標	市民のだれもが、気軽に利用できるスポーツ施設を活用し、生活の中にスポーツを定着できるよう、施設の整備と充実を図ります。 ①主なスポーツ施設の建築物健全度調査を行い、長寿命化計画調書を作成します。 ②長寿命化計画調書を作成するとともに各施設の利用状況等を検証し、施設整備計画を検討します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	スポーツ施設整備計画策定支援業務委託	4,536	
	庁内関係課との協議	0	
	スポーツ推進審議会への諮問及び答申	141	
	各地域協議会や上田市体育協会への説明と意見集約	0	
目標の達成状況	①スポーツ施設建築物長寿命化計画を含めた形でスポーツ施設整備計画を策定することとしました。 ②スポーツ施設整備計画策定に当たっては、スポーツ推進審議会に諮問し、国の示したガイドラインに基づく現況評価や関係団体（市内各地域協議会、上田市体育協会等）からの意見を踏まえ答申を受ける予定です。		

総合評価	B
今後の課題等	スポーツ推進審議会からの答申を基にスポーツ施設整備計画を策定し、この内容を踏まえ、具体的な施設整備等の検討を早急に開始する必要があります。また、これらの検討に当たっては、長野県で開催される国民体育大会（2023年度から「国民スポーツ大会」に改称される予定）の実施スケジュールを加味し計画的に進めていくことが求められます。
上田市教育行政評価懇話会 委員からの意見	市民が気軽にそして安全にスポーツを楽しむことができるよう、スポーツ施設の維持・整備は必要であると考えます。 一方で、プールを例にとっても、アクアプラザ、自然運動公園、ふれあい真田館など複数の施設があり、今後のメンテナンス等を踏まえると、現状の施設数を維持することは困難ではないかと考えます。施設整備に際しては、利用実態を踏まえ、今後の方向性を検討する必要があると考えます。
意見に対する考え方	利用実態については施設ごとに把握しておりますが、昨今の少子高齢化の進行やレジャーの多様化により、全体として施設利用者は減少傾向にあります。 今後は、プールをはじめとする各施設の利用状況と施設維持管理費を踏まえ、総合的な見地から施設の整備方針を検討してまいります。 一方、スポーツ施設を充実させることにより、市民の健康づくりや生きがいづくり等につながることから、計画的な施設整備に努めます。
今後の方針	各計画の検討・策定を効果的・効率的に進めるため、引続き関係団体・部局との連携を行うとともに、スポーツ施設整備計画で定めた更新時期や費用等を踏まえ、有利な起債や補助金等の活用を行うものとし、ます。

平成29年度 事業評価シート

5-②

事業名	市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進 及び生涯スポーツ社会実現のための施策	担当課	スポーツ推進課
-----	---	-----	---------

当初目標	それぞれのライフステージに合わせ、スポーツやレクリエーションに親しむことのできる環境づくりを進め、市民が主体となった生涯スポーツ社会の実現を目指します。 ①広報うえだ等の情報誌により事業内容の周知 (30回) ②全国大会等の出場者支援 (30件) ③こころのプロジェクト「夢の教室」実施 ④スポーツを通じた姉妹(友好)都市との交流国内1回・国外1回の計2回		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	広報うえだ等の情報誌により事業内容の周知		300
	全国大会等の出場者支援		885
	こころのプロジェクト「夢の教室」実施		1,500
	国内外の姉妹(友好)都市との事業を2回実施		1,751
目標の達成状況	①各媒体で事業を周知しました。 (広報うえだ85回、HP随時、上田スポーツプレス40回) ②全国大会等出場者に奨励金(28件)を交付しました。 特に成績が優秀な者に市長表彰を授与しました。 ③こころのプロジェクト「夢の教室」7校15クラスで実施しました。 実施校から「子ども達が、夢を持つことや仲間で助け合うことの大切さに気付き、がんばろうという気持ちになるとても良い機会だった」などの意見が多数寄せられ、5項目5段階の評価でも平均4.5の高評価を得ました。 ④国内外の姉妹(友好)都市との事業を2回実施 中国寧波市：日中友好交流都市中学生卓球交歓大会(参加5名) 和歌山県九度山町：九度山世界遺産マラソン参加事業(参加11名)		

総合評価		B
今後の課題等	引き続きスポーツに関する情報発信に努めるとともに、長野国体の開催を控える中、競技力の向上やスポーツに親しめる機会の拡大を図る必要があります。また、ラグビーワールドカップ開催に向けラグビー競技の普及拡大も課題です。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①こころのプロジェクト「夢の教室」を見学したことがありますが、児童が目を輝かせて参加していたことが印象的でした。トップアスリートとの交流を通して、児童が夢を持つことをの大切さを感じることができるなど、貴重な取組であると評価します。一定の事業費はかかりますが、児童や教員からも高い評価を得られていることから、今後もこの取組が継続されることを期待します。 ②既に様々な媒体を用いてイベント等の周知をしていますが、スポーツイベント参加者のエピソードを紹介したり、参加における不安感を軽減する工夫などにより、さらに多くの市民がスポーツを楽しむことができるよう取り組まれることを期待します。
	意見に対する考え方	①平成25年度から開催している「こころのプロジェクト『夢の教室』」は、これまで実施した小学校からも好評をいただいております。平成30年度も当初の予想を超える要望があったことから、補正予算を計上し、可能な範囲において実施校を追加したところです。 今後も同程度の実施要望数を見込む中で、アスリートとの交流を通じ、スポーツへの関心が高まるよう、また児童の輝かしい将来に向けたキャリア教育の一環としても位置付け継続してまいりたいと考えています。 ②広報面につきましては、広報紙への掲載時、またホームページや有線放送・文字放送の活用時に、スポーツを始めたいと考えている方をはじめ、無関心層からも興味を持っていただけるよう、発信の仕方について一層の工夫をしてまいりたいと考えています。
今後の方針等	上記課題に取り組むため、引続き関係団体・部局との連携を行いつつ、より魅力的な事業、市民が気軽にスポーツに親しめる機会の提供、また参加者の満足度が向上するよう努めます。	

平成29年度 事業評価シート

5-③

事業名	総合型地域スポーツクラブの活動支援	担当課	スポーツ推進課
-----	-------------------	-----	---------

当初目標	<p>「総合型地域スポーツクラブ」で地域の市民交流の活性化を目指します。</p> <p>① 広報うえだ等の情報誌により活動内容の周知（30回）</p> <p>② 市内総合型地域スポーツクラブと連携した健康づくりイベントの開催検討</p>		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	各媒体で事業を周知		0
	市内総合型地域スポーツクラブ連絡協議会設立、連携事業実施		0
目標の達成状況	<p>① 各媒体で事業を周知（広報うえだ67回、上田スポーツプレス5回）します。</p> <p>② 市内に4つある総合型地域スポーツクラブの連絡協議会を設立し、相互連携と資質向上を図ることとしました。また、今年度は計画のみの予定であった連携事業「第1回 あたま・からだ健幸フェア」を実施することができ、クラブの支援と市民の健康づくりの機会創出を図れました。</p>		

総合評価	A
------	---

今後の課題等	<p>市のスポーツ振興のため引き続き連携を進めるとともに、各スポーツクラブや今年度発足した連絡協議会の将来的な自立を見据えた支援を行う必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>計画のみの予定であったスポーツクラブの連携事業が実施に至ったことは、これまで実施してきたスポーツクラブ同士の情報交換等取組の効果として評価します。</p> <p>総合型スポーツクラブの活動支援を通して、市民が気軽に参加できるスポーツイベントが開催されるなど、市のスポーツ振興が図られることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>平成29年度の取組をきっかけとして、市内の総合型地域スポーツクラブ間の連携・交流が進展してきているものと考えております。</p> <p>平成30年度においても、市民の皆さんが気軽に参加できるスポーツイベント3事業（うち1事業は実施済、2つ目の事業はシリーズプログラムとして年11回の予定で実施中）を開催する予定であるなど、市のスポーツ振興に寄与しているところであり、引き続きの活動支援を行ってまいります。</p>	
今後の方針等	<p>取り組みに当たっては、県補助「地域スポーツの新たなプラットフォーム形成支援事業補助金」を活用し効率化を図ります。</p>		